

朽木・宮ノ前の春祭り



毎年4月から6月ごろには、市内各地の神社で春祭りが行われます。春祭りでは、その神社や地域によって、さまざまな形態の神事・祭礼行事・祭礼道具などが伝えられていて、各地で地域色豊かな祭りが行われています。

朽木・宮前坊の邇々杵神社では、毎年5月の第2日曜日に春の祭礼が行われます。

邇々杵神社は、宮ノ前に鎮座する、広い境内をもつ神社で、現在



も十禅師を祀る本殿と大宮を祀る河内社のほか、神宮寺の多宝塔などが立ち並んでいます。

ここで行われる祭礼は、朽木地域では珍しい神輿渡御などが行われる華麗なもので、その中で行われる神事や氏子たちによって用意される神饌物は、古式を伝えるものとして知られています。

神社の氏子は、集落の中心を通る馬場を境に上の組と下の組に分かれ、それぞれの組に祭りの当番が決められます。祭礼前日には、その2組の当番が神社で御幣や花びら餅、神輿に備える「野老」(山の芋科の植物。根がふくらんで芋のようになる。)などの準備を行います。この準備は幣挟みと呼ばれます。

当日は、午前中に拝殿で神事が行われ、午後からは太鼓の音を合図にお旅所に氏子一同が集合し、槍や鉦を持った役の人が神社まで行列を組んで進みます。そして、

神社に到着すると境内の入口付近の「お花畑」と呼ばれる場所を回って整列し、御神酒を全員で頂きます。その後、天狗面を先頭に神輿(神主役)や神輿を加えた行列が神社からお旅所まで渡しを行い、お旅所では、神殿が巨大な御幣を振る「幣振り」や花びら餅の振る舞いがあります。それらが終わると、お旅所から神社へ神輿が戻り、祭りが終了します。

神社に残る記録によると、以前は行列が神社に到着した後に、「流鎗馬」や「田鋤」などの行事があり、「流鎗馬」では錦の衣装に身を包んだ「三馬」が、馬で走



神社を出発する神輿 (平成19年撮影)

りながら的を矢で射抜き、「田鋤」では、農夫の格好をした者が、面白おかしく馬で田を鋤く真似をしました。こうした行事のため、祭りには、いつも5頭の馬が用意されていました。馬を飼う人が少なくなり調達が難しくなったことから、昭和30年代半ばから、馬を使わない現在の形になったということです。

こうした邇々杵神社の祭礼の特徴の一つに、大宮と十禅師それぞれの神輿2基が並んで渡御を行うことがあげられます。神輿の形態としても古い様式を持つこの2基は、昨年度、180年ぶりに全面的な修復が行われ、今年、5月13日(日)に行われる祭礼では、修復を終えた美しい神輿が渡御を行う予定です。(文化財課)

編集者のつぶやき

▼表紙は、安曇川町の松ノ木内湖でたなびく鯉のぼりの群れのようです。松ノ木内湖再生協議会の役員らでつくる四津川湖土里会が、子どもたちの健やかな成長を願い設置されました。約80もの鯉のぼりは迫力満点で、道ゆく人々を魅了しています。▼今月号から、各コーナーのロゴをリニューアルし、新しく、男女共同参画のコーナー「さんかくだより」や、オノミユキさんのごみ減量マンガを掲載しています。ぜひご覧ください。(広報担当S)